



私たちは花が好き。緑が好き。人が好き。

園芸福祉ふくおかネット

ネット通信 花便り

No.42 (2017年1月号)



受賞祝賀会 永年の花と緑のまちづくり活動、社会福祉に理解と貢献した功績で受賞

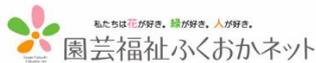
目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 新年のご挨拶 | 2 |
| グリップキャンペーン 2016「種でお絵かき」を担当して | 3 |
| グリップキャンペーン 2016「卵の殻に多肉植物」 | 4 |
| クリスマスイルミネーションとコラボレーション!? | 5 |
| 高齢者施設でのハンギングバスケットづくりを通して園芸福祉を実感！ | 6 |
| 待ちに待ったピザ釜完成！ | 7 |
| 毎月第3土曜日 15時から定例会 | 8 |
| 2016年9月末からの主な活動報告 | 8 |
| ドキドキしながら初の花育体験 | 9 |
| 事務局からのお知らせ | 10 |
| 園芸福祉の庭のいま | 12 |



新年おめでとうございます

お健やかに新春を
お迎えになられたことと
お慶び申し上げます
寒さもいよいよ厳しくなります
くれぐれも風邪など
召されませぬよう
ご自愛ください
平成29年 元旦



新春のお祝詞を申し上げます。

晴天に眩いばかりの初日の出、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、園芸福祉ふくおかネットは、昨年度から国産花きイノベーション事業（農林水産省）の福祉園芸体験を北九州市他3市の高齢者介護福祉施設5か所で10回実施致しました。

主にデイサービス利用者様を対象にハンギングバスケットづくりを体験して頂きました。作品として失敗しないできれいに完成させ、達成感などを味わって頂くと共に作品を施設のフェンスなどに飾り、5月までの半年間花がら摘みや水やりなどをお楽しみ頂けます。併せ、施設や地域の景観の向上を図ることなど花や緑の力を十二分に発揮することを目的として展開しました。

この体験に参加された皆さんのアンケートや施設の管理者、介護福祉士さん達にも効果効用を高く評価して頂くことが出来て、関わった会員も遣り甲斐を十分味わうことが出来ました。

園芸福祉ふくおかネットは、設立以来苔玉づくりや寄植え、花壇づくり、花育等々の活動を展開して来ましたが、これからは高齢者や障がい者、子育て世代の方から子どもたちまで、心身の健康と福祉に微力ながら寄与出来る団体となるように活動を展開してまいる所存です。

これからの時代に必要とされる園芸福祉、花や緑のパワーを活用して求められるものを提供できるよう知識や技術などを学び備える事が急務と考えます。

資格や免許などは取得した時点がスタートです。それから多くの経験を積み、学び、発揮できる能力を高め、常に次代に求められるものを探求し続ける事が生き甲斐に結び付くのではないのでしょうか。

皆様には園芸福祉ふくおかネットの事業活動をご理解いただき、積極的に参画され、大きく高く羽ばたかれ、心身共に健康で充実したよい年となりますよう祈念いたします。



園芸福祉ふくおかネット 代表 谷口 博隆

グリッピーキャンペーン 2016「種でお絵かき」を担当して

北野 多美子

10月15・16日に行われたグリッピーキャンペーンで「種でお絵かき」を担当しました。毎年参加してはおりましたが、担当を任されるのは初めてです。

実施内容はコルクボードに木工ボンドで下絵を描き、その上にいろんな種をのせて作品として仕上げ、お持ち帰り頂くものです。実際のところ楽観していたのですが、コルクボードを取り寄せたり、ボードを8枚に切り分ける、持ち寄っていただいた種をまとめる、ボンドや種を入れる皿など小物の買い物等の準備がありました。

当日は、ボンド容器にボンドを補充、アイデアが浮かばない時は一緒に思案する、こんな種もあるよと勧める、種にまつわる植物や花の話をしたり、散らばった種を片づけたりするのが主な仕事です。

1日目は好天に恵まれましたが2日目は朝の雨が災いして出足が鈍く午後になり賑わいました。

幼児・児童は取り掛かるまでに戸惑われることが多いのですが、始めてしまえばどんどんアイデアが浮かんでくる様は微笑ましく、豊かな発想でキャラクターやウエルカムボードが仕上がりました。

身近にある種に興味をもって頂けたのではないのでしょうか。

◎印象と感想

- ・消防車の下絵を描いてから作品に仕上げた男の子。今まで下絵を描いた方がおられず感心してしまいました。
- ・「お母さん大好き」とメッセージを書かれた女の子。お母さんはとても喜ばれておりました。
- ・種標本かと思うほど一列ずつ各種を並べた男の子。10数種以上30分はかかりました。
- ・黒豆が気に入り1種類のみでアート作品にした女の子。
- ・人気の種はカラフルで形が変わっているもの（うずら豆・あずき・はなしょうぶ、もも、とうもろこし、うばゆり、えのころぐさ、モミ種（米）、ゴーヤ等）
- ・趣旨は幼児・児童ですが大人向け見本があれば興味が湧き参加していただけるようになるのではないのでしょうか。
- ・木工ボンドの塗布の仕方を変えた方がいいのではないかと後日意見がありました。

◇ボンドを直接出すと出過ぎて小さい種がのせづらい、乾きが遅くなるので、スプーンでのばしてから種を乗せると良いそうです。

・会員の皆さんにも実際に体験していただき、作品を見本展示や販売するのも案だと思います。

・思案されている方用にボードに予め下絵を描いておき、種をのせるだけにする方法もあるのではないのでしょうか。





グリップキャンペーン 2016「卵の殻に多肉植物」

山崎 博子

「今ね、多肉植物が人気でなかなか手に入らないんだって」 そうゆう情報が入る中、企画されたのが「卵の殻に多肉植物」です。8月には、材料探しに入りました。

購入した多肉はこの夏の異常な暑さに耐えきれず溶けだすものもあります。

卵の殻は、会員の協力で200個以上も集めることができました。ありがとうございました。

卵を入れる容器を探すのも苦勞です。何軒も何軒もお店をまわり、安くてかっこいいもの100個何とかそろえることができました。

当日は、親子連れでの参加が多く、2個作って行かれる方もいました。

緑に親しむ入門口として最適のようです。

- 庭がなくてもできる。
- 手入れが簡単、水やりは10日に一回くらいがちょうどいい。
- 手のひらサイズで、日当たりのいい部屋で育てられる。
- 四季を感じるができる。冬に向けて紅葉します。
- 花がかわいい。
- 高齢者の方も、扱いやすい。

など思いつくままに「良さ」を羅列してみました。

事前に多肉寄せ植えの会員研修を、アイランドシティ中央公園内園芸福祉の庭の定例作業後に実施しましたので、誰でもが指導することができました。また、イベント終了後に各自が自宅で育てていくという課題を以って卵の殻に多肉植物を植えて持ち帰りました。

皆さま、元気に育っていますでしょうか。



クリスマスイルミネーションとコラボレーション!?

園芸福祉ふくおかネット会員

警固公園フラワーメイト 代表 米倉 治美



福岡市の街なか公園に『四季の風を感じるオアシスをつくりましょう!』と花好きたちが集い、花・緑のまちづくり活動を推進している『警固公園フラワーメイト(2016年3月1日発足)』。

冬が訪れた天神の街が夕ぐれに包まれると、シャンパンゴールドの光にライトアップされた警固公園に多くの人々が訪れ賑わっています。その公園内の「みはらしの丘」にピンクミュウリー(宿根) のフワフワした穂が風に揺れています。

「ここに花壇を作りたい!」と熱望する園芸福祉ふくおかネット会員古荘 浩士さん。先輩の思いを叶えようと有志たちが集まり芝生を剥ぎ取り、クワや三叉、スコップで土を掘り花壇作りに汗を流した9ヵ月。「本当にここに植物たちは根を下ろしてくれるのだろうか?」私は自問自答しながら花壇のコンセプト、花壇のデザイン、年間の植栽計画を立てました。今は、妙に警固公園のイルミネーションと馴染んでいるから不思議!です。海を渡る蝶「アサギマダラ」を子どもたちに見てほしい! とみはらしの丘にはフジバカマも植えています。

会員募集中!

あなたも一緒に「街中オアシス」を作りませんか

警固公園定例会/第2土曜日
(10:00~12:00)

お申し込み・お問い合わせ先/
警固公園フラワーメイト/
携帯 090-3417-5662 米倉

警固公園ライトアップ期間/2016年11月10日(木)~2017年1月9日(月) 17:00~24:00



土留めの竹組に苦戦中!



「花しるべ2017」に向け、チューリップの球根を植えました。



高齢者施設でのハンギングバスケットづくりを通して園芸福祉を実感！

黒瀬 恵子

昨年度より、農林水産省「国産花きイノベーション事業」の一環として、県内の高齢者施設で利用者さんにハンギングバスケットづくりを楽しんで頂いています。今年度は古賀、若松、八幡、飯塚、久留米の5カ所の施設で、それぞれ2回ずつ実施させて頂きました。

高齢者施設でのハンギングバスケットづくりは、1時間の体験時間内に作品が出来上がるよう、また、利用者さんに達成感も味わっていただけるよう、私達講師陣でハンギングバスケットを途中まで作っておき、利用者さんに天部(容器の上の部分)を植えていただいて完成させてもらいます。制作時に容器を転倒させたりしないよう、予想されるトラブルを回避するため、容器を固定するスタンドも準備。これは手先の器用な谷口代表が何度も試作を重ね、車イス利用者の方にもハンギングバスケットづくりを楽しんで頂けるよう工夫しました。

植栽技術の高いハンギングバスケットづくりですが、相手の立場に立って事前準備しサポートすることで、皆さんに楽しんで頂くことが出来ました。今回は、園芸療法を行っている恵迪館(けいてきかん)でもハンギングバスケットづくりを指導させて頂きましたが、後日、西野館長から谷口代表宛に下記のメールが届きました。

「グループホームの皆様が、毎日ビオラ(ハンギングに使った花)を観察し、楽しみに手入れをされています。デイサービスの皆様は、利用日にビオラに会いに行かれ、屋外歩行の距離が伸びています。」

心温まる内容に、とても嬉しい気持ちになりました。改めて「園芸福祉」の素晴らしさを実感させて頂けたことに感謝です。



ハンギングバスケットの作品は施設のフェンスや玄関前に飾ってあります。

